



大志ある原石



義務教育学校 第9学年

第26号

令和2年5月11日発行

9学年のはじめに「自律と自立」

学年主任

新緑の季節を迎え、汗ばむ陽気に半袖を着る日も出てきました。9学年への進級、おめでとうございます。下級生や新任の職員の目には、最高学年の生徒は大人っぽく輝いてうつるものです。今度登校する時には、皆さんからも最高学年らしいオーラが出ていることでしょう。楽しみです。

さて、休業の間、自分自身のコントロールはできましたか？いわゆる「自律と自立」については、大人であっても日々向き合い悩まされるものです。生きていく中で、もちろん今年は進路を考える際にも、自分を律する姿や自分で行動する姿に向き合うことになり、これらは人間が自分自身を理解して成長していく姿そのもののように感じます。

過去に勤務した学校での出来事です。私が担任するクラスは、授業中にやや無駄口があり、先生も生徒も「改善せねば」と思っていたのです。気をつければ直ると思うかも知れませんが、それができないことが私達の課題でした。私から「席を1人ずつ離す方法もあるよ」と提案したところ、生徒はちょっと考えているようだったので、「①1人席をやってみたい ②どちらでもよい（先生に任せる） ③2人席のままがよい」のどれかに挙手を求めたところ、結果は、①…0人 ②…③を除く全員 ③…1人、でした。③の生徒がまっすぐに手を上げ、私も生徒も彼に視線を向けた光景を、今でも覚えています。野球部の元気な男子です。理由を尋ねると、「さみしいから」と言いました。みんなはクスッと笑って、無言で「まあ、分からなくもない」「そうかも知れない」と反応したように見え、「もうしばらく2人席で頑張ろう」ということになりました。

2人席で過ごすことは、隣の者どうしの安心感や信頼感を生んでいたのだと思います。その後、クラスとしての「自律と自立」は、まずゆっくり、そしてある頃から加速度的に成長しました。「自律と自立」は個人のことでありますが、身近な者どうしが「心」という動かしにくいものに影響し合うことで、更に育まれるものではないでしょうか。

現在、登校再開を待ち望む声が多く聞かれます。様々な行事が中止になりましたが、既に9学年は始まっています。今年1年間、個人や集団の「自律と自立」も成長させながら、助け合って生活していきましょう。全員で、素敵な卒業を迎えられることを願います。